

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第82回）に係る面談

2. 日時：令和2年7月6日（月） 13時30分～15時20分

3. 場所：原子力規制庁18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

長官官房 金子審議官

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、林田管理官補佐、松井安全審査官、伊藤係長、田上係長、久川係員

福島第一原子力規制事務所

小林所長、坂本検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

本社9名、福島第一原子力発電所7名（テレビ会議システムによる出席）

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

担当者2名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第82回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受けた。

- 放射性物質分析・研究施設第2棟について
- 福島第一原子力発電所 構内設備等の長期保守管理計画の策定状況について
- 原子炉注水停止試験の実施について
- 建屋滞留水処理の進捗状況について
- 3号機サプレッションチェンバ（S/C）内包水のサンプリングについて
- 1/2号機排気筒ドレンサンプピット内部調査状況
- 1/2号機 SGTS 配管撤去に向けた今後の調査方針について
- 3号機 燃料取り出しの状況について

○原子力規制庁より、以下のとおりコメント、確認を行った。

【放射性物質分析・研究施設第2棟について】

- 臨界安全、遮蔽等の設計において、前提条件となる燃料デブリの仕様等の具体的な情報を記載した資料を追加すること。
- 閉じ込め機能について、単に負圧に維持するという説明だけでなく排風機の仕様及びその仕様が設備の重要度を考慮したものになっていることを説明すること。
- 検討会では当該施設に係る保安管理の体制について、JAEA と東京電力の関係性を整理し、簡潔に説明すること。

【福島第一原子力発電所 構内設備等の長期保守管理計画の策定状況について】

- 長期保守管理計画については、策定した長期保守管理計画リストを紹介する形で説明すること。

【原子炉注水停止試験の実施について】

- 原子炉注水停止試験の計画だけでなく、将来の原子炉格納容器内の水量管理の計画、原子炉注水停止に向けた計画を踏まえた上で、今回の計画の条件設定の妥当性についても、説明すること。

【建屋滞留水の進捗状況について】

- 3号機原子炉建屋のトーラス室と HPCI 室の連通性が悪くなりトーラス室の滞留水が抜けなくなっているという情報が入ったが、状況及び今後の対処方針について説明すること。
- 滞留水中のインベントリを建屋毎に示すこと、また継続的に測定を行いトレンドを示すこと。

【3号機サプレッションチェンバ (S/C) 内包水のサンプリングについて】

- 本資料については建屋滞留水の進捗状況と合わせて説明すること。

【1/2号機排気筒ドレンサンプピット内部調査】

- 過去の水位のトレンドから何らかの水の流出入源があることが予想されるピット底部から 325mm の高さ位置を、6/30 に行った内部調査で撮影した写真内にわかりやすく示すこと。

【1/2号機 SGTS 配管撤去に向けた今後の調査方針について】

- SGTS 配管内の汚染密度等については、原子力規制庁で実施している事故分析の現場調査の測定結果も提示し、双方の測定結果を踏まえて次々回以降の検討会において議論することとしたい。

【その他について】

- また過去のコメント対応状況について、未回答のものについて整理し、回答が可能なものについては資料に追加して説明すること。

○東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 放射性物質分析・研究施設第2棟について（案）
- 福島第一原子力発電所 構内設備等の長期保守管理計画の策定状況について（案）
- 原子炉注水停止試験の実施について（案）
- 建屋滞留水処理の進捗状況について（案）
- 3号機サプレッションチェンバ (S/C) 内包水のサンプリングについて（案）

- 1/2号機排気筒ドレンサンプルピット内部調査状況（案）
- 1/2号機 SGTS 配管撤去に向けた今後の調査方針について
- 3号機 燃料取り出しの状況について（案）
- 福島第一原子力発電所 中期的リスク低減目標マップ（2020年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表（案）